

令和6年度第1回 刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会会議録

日 時 令和6年7月3日（水） 13：30～15：30

場 所 101会議室

委 員 塚本 辻村 宮田 福島 浅田 日下 杉浦 奥坂 二宮 本坊 長谷川 谷口 中根
高橋 近藤

事務局 加藤直 杉浦 木下 新實 安藤 加藤良 細山 加藤貴 野々山 近藤 羽田野 磯村
喜田

意見・質疑等

1 開会

2 会長あいさつ

3 委員及び事務局職員紹介

4 議題

（1）要介護認定状況等について（資料1）

【説明】 事務局

【質疑応答】

会 長 全国的な流れとして75歳から84歳までの後期高齢者と85歳以上の後期高齢者を区分している。令和12年度における85歳以上後期高齢者の認定者数は約6割となっており、また、85歳以上後期高齢者の約5割が認知症を発症していると言われている。

令和6年から令和12年までは、85歳以上後期高齢者数が1.46倍増加する。単純な計算になるが、現在の保険料が5,900円のため第11期の保険料は8,600円程度になる可能性がある。第11期計画時には、介護予防や認知症に関する取組としていかに外出支援を行っていくかが重要である。

（2）介護保険関係施設の整備について（資料2）

【説明】 事務局

【質疑応答】

会 長 高齢者が利用するサービスについて、より多くの選択肢を持った上で生活ができるように整備を積極的に推進して欲しい。また、地域密着型サービスであり、刈谷市の市民のみが利用できるサービスであるため、運営法人等については、十分確認した上で選択していく

必要がある。

(3) 地域密着型サービスの利用状況について（資料3）

【説明】 事務局

【質疑応答】

委 員 それぞれの施設において利用者のバラつきがみられるが、何が原因で利用者数が減少しているのか。また、それに対する対策は何かあるのか。

事務局 運営は各法人が行っており、法人の方針等によりバラつきがあると思われるが、方針等に対して市が指導することは難しい。聞いている限りでは、利用者数が減少している認知症対応型共同生活介護のグループホームめぐらす刈谷は、人員不足による受入人数の縮小を行っているとのことである。また、地域密着型通所介護であるリハビリ特化型デイサービスほっとパークについては、令和5年7月から事業開始している事業所であり、今後利用者数は増加するものと思われる。認知症対応型通所介護事業所については、認知症の方が通いを利用するのが難しいため、利用者数が増えないとのことである。

会 長 人員不足による受入人数の縮小は理解できるが、人員基準は満たしているのか。

事務局 人員基準は満たしている。

(4) 介護保険サービス事業所の指定等について（資料4）

【説明】 事務局

【質疑応答】

委 員 株式会社栄光会はどういった法人か。また、半日型のデイサービスにニーズはあると思われるが、廃止や新規指定の理由が事業譲渡との説明があった。経営は難しくなっているのか。

事務局 株式会社栄光会は、2014年に岡崎市にて接骨院の開院及び通所介護事業所を開設され、現在では接骨院が刈谷市に1か所、豊田市に1か所、岡崎市に3か所開院されている。また、通所介護事業所については、愛知県内で5か所開設している。

経営に関しては、管理者の話では難しいとの話があった。ただし、株式会社栄光会は前法人から事業等の状況について確認した上で事業譲渡されたものであり、刈谷市としては、それらを踏まえた上でよりよいサービスを提供いただけるものと期待している。

会 長 事業が引き継がれていくとのことであるが、これまで前事業所で契約していた利用者について、そのまま利用が継続されるわけではなく、一人ひとりの利用継続などについてケアマネジャーが確認する必要があると思われるが、その点の確認はしているか。

事務局 利用者及び家族の確認を取った上で、利用契約を行うことは必須である。

委 員 新規事業所の指定において、利用定員を表記していない理由は何か。

事務局 地域密着型サービス事業所のため、定員数の上限が定められている。今後定員数の記載について検討していく。

(5) 第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の評価指標の達成状況について（資料5）

【説明】 事務局

【質疑応答】

委員 自己評価結果の評価基準はどうなっているのか。また、認知症初期集中支援チームの支援件数について、目標値60件に対して実績値が13件とあるがなぜ評価が“○”になっているのか。

事務局 数値で表現できるものについては、概ね8割から9割程度で“○”、7割程度を“△”、それ以下を“×”としている。ただし、項目によっては実施状況に応じて評価している。認知症初期集中支援チームの支援件数については、地域包括支援センターに配置した認知症地域支援推進員等による支援により、解決するケースが増加しており、そういった相談できる仕組みや窓口等での対応件数の実績から、早期対応ができているものと考え評価を“○”にしている。

委員 認知症ケアパスについて、冊子の配布により周知している旨の実施内容になっているが、配付だけではなく利用につながるような活動が必要だと思われるがいかがか。

事務局 認知症ケアパスは、認知症になった場合に受けられる医療介護サービスの内容やサービス提供までの流れ等をまとめた冊子になっており、各種相談窓口や医療機関等の名簿を記載している。ただし、配布のみが目的ではないため、今後は必要な方に届くような方法を検討していく。

委員 介護職員の確保について、法人等への指導が難しいことは承知しているが、退職する人が多いことに目を向けてほしい。その上で、介護職の魅力発信について、結果を評価するような目標は立てられないか。

事務局 介護職への魅力発信については、日々考えながら行っているところであるが、啓発活動を以て介護職の確保につながったのかどうかについては、追跡調査は難しい。また、仕事の魅力は人それぞれ捉え方が違うものであるため、啓発活動としては、興味を持ってもらうことや介護について考えてもらうきっかけ作りとして事業を展開している。

会長 職の定着に対して何をするのかを考える必要があり、例えば、介護労働安定センター等の調査により退職理由等が公表されている。そういった情報を事業所等に周知することも得策である。

委員 ちょこっとささえあい事業について、現状の登録者数等はどうなっているか。

事務局 令和6年7月1日からマッチングが開始され、実際に自宅等に出向くことになる。現状は利用者は9名、サポーターは80名登録している。

委員 ちょいそこかりやについて、現状運行日は平日のみであり、運行時間が16時までとなっている。医療機関における午後の診療時間や土曜日の診療時間をカバーできる仕組みにしてほしい。また、シルバーカーを利用して搭乗できるようにするなど、地域の方が利用しやすいような方策を検討してほしい。

事務局 貴重な意見感謝する。担当部署（都市交通課）に今回の意見を伝える。

委員 刈谷市における高齢化は愛知県と比べ4年遅れとなっている。第9期の計画において4年後の高齢化等への対策は満足するものになっているのか。

事務局 未来を見据え対応していくことを常に考えている。例えば、認定者数の増加を抑制することを目的に、介護予防に力を入れて事業を展開していくことなどを行っている。

（6）地域包括支援センターについて（資料6－1、6－2、6－3）

【説明】 事務局

【質疑応答】

会長 実績報告について、刈谷中部包括支援センターの担当地区における高齢者人口が一番多いとはいえ、総合相談事業等の件数が多く、他の地域包括支援センターと比べ大変になっている。また、介護予防マネジメントについて、一手に担っているようにも思われる。その点どう考えているか。

事務局 相談件数や介護予防マネジメントの件数について、カウント方法の違いによりバラつきが大きくなっている。今後調整し統一化を図っていく。

会長 事業計画について、実施時期に通年と記載されているものが多く、把握しづらい。もう少し具体的な目標設定にするべき。数値化できるものは数値化し、評価ができる仕組みにしてほしい。

事務局 評価がしやすいような表記にしていく。

5 その他

事務局 次回の開催について、令和6年9月20日（金）午後1時30分からとさせていただく。また詳細は改めて通知する。

6 閉会

会長 本日の議題については、これですべて終了した。これにて令和6年度第1回の刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会を閉会とする。